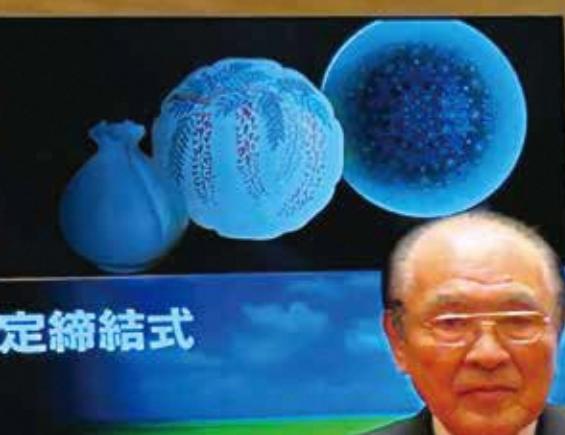




町民と共に歩む！

有田町議会だより



釧路町議会との友好交流協定締結式
12月18日(釧路町庁舎)

目次

- ◆ 議案審議のピックアップ
- ◆ 常任委員会報告
- ◆ 町の課題を徹底討論！
一般質問 12 人
- ◆ 産業建設常任委員会視察報告
- ◆ 釧路町議会友好交流協定締結
- ◆ 議員発議
- ◆ 視察受け入れ報告
- ◆ 任期を終えて

令和 7 年 12 月 議会
No.75

- P2~ ☆ 議案審議のピックアップ
- P4~ ◎(議案第64号)
有田町定住促進条例の一部改正について
- P7~ ◎(議案第73号)
竜門施設改修事業 竜門キャンプ場管理棟
新築工事請負契約の締結について
- P13 ◎(議案第75号)
一般会計補正予算(第6号)について
農地農業用施設災害復旧事業2,760万円
さがの稼げる水田農業推進事業110万円
- P14
- P15
- P16
- P17

令和 8 年 1 月 30 日 発行

令和7年12月議会 議案の審議結果 ピックアップ

令和7年第15回有田町議会定例会に提出された議案（第62号～82号）審議は、全て賛成全員により可決された。一部抜粋して報告する。

◎（議案第64号）有田町定住促進条例の一部を改正する条例について

改正の理由

有田町まち・ひと・しごと創生総合戦略等に基づき、継続的な定住促進と人口増加を図るため、定住者の住宅取得に対して交付する奨励金制度の一部見直しと期限の延長を行う。

改正の内容

1. 対象者の要件

奨励金の交付対象者となる者の要件のうち、「令和5年4月1日から令和8年3月31日までに新築住宅を取得した者」を「令和8年4月1日から令和11年3月31日までに新築住宅を取得した者」に改める。

2. 奨励金の額

対象者が町外からの転入者である場合と町内からの転居者である場合とで奨励金の額の差が大きいことから、定額部分を10万円増額して町外への転出を抑制しつつ、転入加算の減額を同額にとどめて転入者に対する交付額の合計額を維持することにより、継続的に定住人口の増加を図る。

＜交付要件と交付額＞

交付要件	交付額		
		現行	改正後
1 定額 新築住宅1戸につき	30万円	40万円	40万円
2 転入加算 町外に3年以上居住され、転入される方	50万円	40万円	40万円
3 子育て世帯加算 同居する中学生以下の子1人につき（3人まで）	10万円	10万円	10万円
4 町内業者施工加算 町内施工業者による建築の場合	30万円	30万円	30万円
5 新婚世帯加算 申請者が新築住宅に居住を開始した日前2年以内に婚姻している場合	10万円	10万円	10万円

＜交付要件と交付額＞

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
町内転居	町外転入	年度計	町内転居	町外転入	年度計	町内転居	町外転入	年度計
21	20	41	18	17	35	22	15	37

◎（議案第73号）令和7年度竜門施設改修事業竜門キャンプ場管理棟新築工事請負契約の締結について

竜門キャンプ場管理棟は老朽化が進み、安全性やサービス面が不全になっていたため、新築工事が行われる。

キャンプ場利用客の受付場所や黒髪山登山客等への情報提供ステーションとして整備される。

■契約金額 7,711万円



▲竜門キャンプ場管理棟完成予想図

令和7年12月議会 議案の審議結果 ピックアップ

◎(議案第75号) 令和7年度有田町一般会計補正予算(第6号)について 農地農業用施設災害復旧事業 2,760万円 (県支出金 2,208万円、分担金 276万円、一般財源 276万円)

令和7年7月から9月の豪雨により、被害を受けた9箇所の農地および農業用施設の災害復旧工事費を追加補正するもの。

被災状況は、傾斜地にある農地の石垣が崩れたものが多く、今年度は5月上旬の大雨以降、全体で農地17箇所、農業用水路3箇所の計20箇所が被災している。

補正後の予算額1億190万円で災害復旧工事に取り組む。



さがの稼げる水田農業推進事業 110万円 (県支出金 85万円、一般財源 25万円)

米・麦・大豆作付農家・産地の経営強化と収益向上のため、革新技術導入や省力化機械・施設整備、安心・安全な売れる米づくりなどを県と市町が共同で支援する県の補助事業で、水田農業の担い手育成と産地強化を目指している。

今回、この事業を活用し、水稻の乾田直播用機械の導入を計画している農家を支援する。



12月定例議会委員会審議

産業建設 常任委員会

商工、環境、農林、土木建設、
上・下水道、農業集落排水、
浄化槽、宅地分譲などに関する
ことについて審議します。

(委員会構成議員 5人)

委員長 手塚 英樹
副委員長 諸隈 洋介

▼有田町火入れに関する
条例の一部を改正する
条例

松尾委員 町民への周知
のための広報は。
農林副課長 1月号広報
にて周知を行う。

▼有田町火入れとは

火入れとは、毎日朝までに市町の許可が必要
林業等を実じて、草木等を目的に焼却すること。



たき火とは、農地耕作への遮断が必要な場合があります
屋外で、落ち葉、枝条などを焼却すること。
燃燒後的小規模な焼却も含む。



たき火が乾燥するなど林野火事が発生しやすい気象状況となり、林野火災注意報・林野火災警報が発令されたら
→注意報：屋外での火の燃焼は控えてください。
→警報：屋外での火の燃焼はできません。

▲山火事防止チラシ

建設課長 農村地域防災
減災事業は立部地区の
権ノ木ため池の劣化状
況の把握と、防災工事
に取り組むための調査
業務。緊急自然災害対
策事業は、有田川の山

▼令和7年度有田町一般
会計補正予算(第6号)
農林副課長 さがの稼げる
金について説明を。

▼令和7年度有田町一般
会計補正予算(第6号)
農林副課長 乾田に直接
播種する方法で、苗を作
らない分、省力化が
図られ、農業の革新に

▼令和7年度有田町一般
会計補正予算(第6号)
農林副課長 さがの稼げる
金について説明を。

岩尾委員 工事の進捗状
況の知らせは行うのか。
農林副課長 予定はして
いないが完成予定図は
お知らせするよう検討
する。

松尾委員 「付託案件以外」
建設課長 農村地域防災
減災事業は立部地区の
権ノ木ため池の劣化状
況の把握と、防災工事
に取り組むための調査
業務。緊急自然災害対
策事業は、有田川の山

桶渡委員 農村地域防災
減災事業及び緊急自然
災害防止対策事業の説
明を。

なる取り組み。その機
械を導入する補助であ
る。



▲大井手頭首工のラバーダム

建設課長 7月～9

月の豪雨
農地農業
用施設災
害復旧事
業の説明
を。

桶渡委員 農地農業
用施設災
害復旧事
業の説明
を。

手塚委員 降雨が少
ない
が水不足問題は、昨年
のような黒く変色する
恐れは。

谷牧地区
内にある
大井手頭
首工のラ
バーダム
老朽化の
補修事業
である。

上下水道課長 現在貯水
率は60%台に近い。この
ままいくと1月20日
前後には節水をお願い
する状況である。県が
行った有田ダム水質調
査では、水の変色は渡
り鳥が直接の原因では
ないと判断。夏場から
秋の高温、冬場の低温
の気温変化が原因と言
われてあり、今年も同
じことが起きる恐れが
ある。

で、発行元の有田料飲
店組合事務局である有
田観光協会に確認した
ところ、商品券に校正
不備が見つかり、販売
に遅れが生じた。町民
への周知も足りなかつ
た。今後は確認作業を
十分に行い、周知を徹
底するよう事務局に指
導した。

文教厚生 常任委員会

民生、保健、医療、福祉、介護、教育に関することについて審議します。

(委員会構成議員 4人)

委員長 松永 俊和
副委員長 梶原 貞則

▼有田町特定乳児等通園
支援事業の運営に関する基準を定める条例

浦川委員 こども誰でも通園制度を現在利用している園及び人数は。子育て支援課長 令和7年度から全園で利用可能。うち現在2園で2名の利用である。

▼令和7年度有田町一般会計補正予算(第6号)
浦川委員 歴史と文化の森公園施設修繕費の説明を。



▲こども園の給食の様子

生涯学習課長 記念堂のホワイ工に設置している大型ホールスクリーンと、記念堂内のトイレスの不具合の修繕である。

▼有田町特定乳児等通園
支援事業の運営に関する基準を定める条例

浦川委員 こども誰でも通園制度を現在利用している園及び人数は。子育て支援課長 令和7年度から全園で利用可能。うち現在2園で2名の利用である。

食費補助金は増額補正しているが、保育園やこども園についての増額がないのはなぜか。

子育て支援課長 各園に所要額調査を行い、予算の範囲内で足りているためである。

梶原委員 給食費で賄えない場合は、各園で立替えるという制度では赤字を出してまで運営

できないため、補助金をもらうに至つていない。運用制度の見直しをしてはどうか。

子育て支援課長 過去の状況を改めて確認し、検証していきたい。

梶原委員 小中学校ICT機器活用事業備品修繕費の説明を。

学校教育課長 令和元年より導入した生徒用パソコンに係るもの。劣化・寿命もあり、バッテリー機能が低下しているため170台ほど

の交換である。

松永委員 体育センター施設

管理事業の固定式工アコン

の概要は。

生涯学習課長 一般的な対流

式の室内機で

冷暖房環境を整備する計画

である。

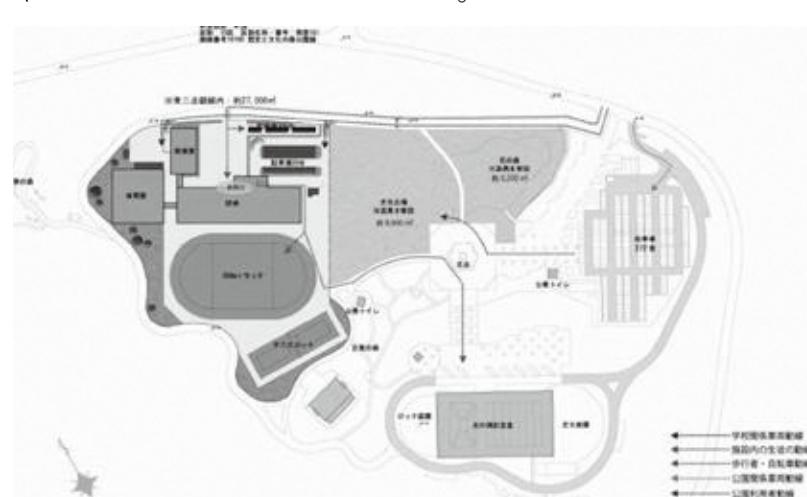
浦川委員 中学校再編について、問題点を

整理して毎月広報に掲載をしてはどうか。

学校教育課長 住民に対し詳しく丁寧な説明を徹底していく。

梶原委員 ホームペジはもとより、広報が一番の手段と考えている。別冊で折込も検討している。

浦川委員 スクールバス、



▲統合中学校のイメージ図（今後、変更の可能性有り）

9月定例議会委員会審議

総務常任委員会

総務に関すること、他の委員会に属しないこと、全般について審議します。

(委員会構成議員 6人)

委員長 中島 達郎
副委員長 蒲原多三男

万円の加算となる。

▼有田町定住促進条例の一部を改正する条例

今泉委員 物価高騰の中、奨励金の増額を。

まちづくり課長 今回の改正内容以外は考えていない。

今泉委員 住宅用地購入費も対象にできないか。まちづくり課長 住宅用地まで検討していない。

原田委員 申請者が新築住宅取得方法にはいろいろなパターンが考えられ、それに応じた対応が必要となる。

まちづくり課長 新婚世帯の場合は、定額に10

▼有田町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

今泉委員 議員一人当たり5万円の増額を要望したが、1万6千円から2万円の増であった。

総務課長 町の財政が厳しい中、予算が増加するはどうかという意見は。

	町名	報酬月額	適用年月
1	玄海町	290,000	平成29年10月
2	白石町	268,000	令和7年2月
2	有田町	268,000	令和8年4月
4	吉野ヶ里町	260,000	令和7年4月
5	基山町	256,800	令和5年4月
6	江北町	254,000	平成15年1月
7	みやき町	253,000	平成26年10月
8	太良町	249,000	令和7年1月
9	上峰町	246,000	平成19年4月
10	大町町	242,300	平成6年4月

▲議員報酬月額表 (県内10町 単位:円)

見が過半数を占めた。議員定数を1人減とするなどを考慮して、現議員定数16人の予算内での増額とし、実質6・2%増の改正案となつた。委員は、商工、農業、陶磁器、NPO、婦人会、区長会、労働組合、金融機関等の30代～70代で構成。改選期毎の審議会開催を望む意見も出した。

蒲原委員 予算の問題もあるが、議員のなり手不足で議会の状況はさらに厳しくなる。今後も審議することが望ましいと考える。

▼令和7年度有田町一般会計補正予算(第6号)

原田委員 防災備蓄品事業の廃棄物はどのようなものか。

総務課長 平成28年度に500ほど購入した土嚢で、薬剤を含み水を吸うと膨らむタイプのものだが、経年劣化で水を吸つても膨らまなくなつたため、廃棄を行いたい。薬剤が含まれており、産業廃棄物扱いとなる。また、避難所の劣化したマット

を廃棄したい。

中島委員 総務省の事業である地域おこし協力隊事業と文化庁の事業「本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業(ACEプログラム)」は、今後連携して進めていくのか。

まちづくり課長 別事業のため関連はない。このため関連はない。

中島委員 少ない人員の中で、協力していくことはないのか。

まちづくり課長 事業の内容が不明なので、今の段階では分からない。



▲内山地区と大公孫樹

学校教育課長 現在、歴史と文化の森公園を候補地として基本計画を策定している。令和8年度から9年度にかけて基本設計及び実施設計を行う。

工事は、令和9年度から造成工事に着手し、令和11年度から12年度にかけて学校本体工事及び外構工事を行う。令和13年4月開校を目指す。

40人程度で、現在の曲线で、川小学校一校分の人数になる予定。

議員 6月議会で承認された業務委託の基本構想と基本計画の策定はいつできるのか。
学校教育課長 令和8年5月くらいになる。
議員 建設用地と建設工事は、

有田・西有田中学校の統合



まつお ふみのり
松尾 文則 議員

新中学校の開校は

答 令和13年4月を目指す

大山・曲川小学校の 将来ビジョン

議員 両小学校は建て替えの時期に来ている。それぞれ建設するのか。

当校教育課長　総合語
画のデータでは203
0年曲川小160人、
大山小126人、20
35年両校合わせて2
40人程で、現在の曲



▲改築が待たれる曲川小学校

詳しくは
この動画で



- ・上下水道料金改定に向けた取り組みについて
- ・町道改良工事について
- ・市民スポーツ大会などの職員の協力体制について

議員 権利と文化の森
公園内の多目的トイレ
を利用する際、車椅子
等を利用する方が、段
差がなく余裕がある駐
車場があれば、インク
ルーシブ対策だと思う
が。

（包括的）対策

なかしま たつろう
中島 達郎 議員

車椅子利用者等の使いやすい

利用者の視点に 維持管理を行う

カスタマーハンズメント（利用者の暴言等）への対応

定年退職したベテラン職員の活用について
は、定年延長や暫定再
任用制度を活用しながら
適材適所の配置を検
討していきたい。

「ら・かんばねら」上映

議員 町での上映を。
まちぐくつ課長 令和

まちづくり課長 令和
8年2月28日（土）の
上映で準備している。
◇その他の質問
・交通標識の設置等

総務課長 住民サービスの向上を目指し、事務手続きの簡略化や役場以外での手続きができるようにDXを導入しているが、従来の対応も継続しているため高齢の方からの力不足に該当する事例は多い。本年10月には、職員研修として全職員を対象に接遇の向上研修も実施した。

詳しくは
この動画で



中国・景德鎮市に

有田会館はできたのか



いけだ えいじ 池田 榮次 議員

答

既存施設の整備で

一応「完成」と判断

「有田会館」の建設は

▽建設着手は「虚偽」

議員 旧有田町は景德

鎮市と友好交流協定を締結し、「有田会館」

建設を条件に2千万円の寄付を申し出している。

景德鎮市から建設着手の報告と残る1千万円を求められた町は

「確認に出向くも着手は虚偽だつた。信頼を損なわれた。着手金の返還を求めた」と当時の新聞は報じている。

有田会館の建設は、手の報告と残る1千万円を求められた町は「確認に出向くも着手は虚偽だつた。信頼を損なわれた。着手金の返還を求めた」と当時の新聞は報じている。



景德鎮とは

商工観光課長 残りの1千万円は「建設着手の確認後」が条件だつ

詳しくはこの動画で



た。建物購入費は先の着手金1千万円が充当された。

▽「建設確認」は誰が

議員 町のホームページに「建設確認」「完

成を確認」とする訪中団の報告が3回もある。

その前後にも訪中団が建設を確認している。誰が建設を確認したのか。

▽交流30周年事業は

議員 現下の国際情勢と寄付金も不透明だ。

このよう

うな

事業をやる

のか。

商工観光課長 周年を祝うことは意義深いものだが、その時々の国際情勢や政情なども考慮し、慎重に検討する必要がある。

議員 児童生徒への対

応は。

教育長

担任と学校職員が連携して、児童生徒の状況に応じた支援を整備している。

議員

児童生徒の不登校

及び問題行動

対応は。

議員

有害鳥獣対策

害はあるか。

農林課長

直接被害は

ない。

議員

放置補助はあるか。

議員

いじめの認知件

数は。

議員

いじめの認知件

応は。

教育長

担任と学校職員が連携して、児童生徒の状況に応じた支援を整備している。

議員

住民への直接被害はあるか。

農林課長

直接被害はない。

議員

ワイヤーメッシュ

ユや電気牧柵の個人設置補助はあるか。

議員

個人設置補助はない。

議員

地に対して補助がある。

農林課長

個人設置補助はない。

議員

地に対して補助がある。

学校教育課長 中学校
統合については、現在、
児童生徒にとってより
良い学習環境を早期に
整備すべく、計画の前
倒しをすべき。また、
小中学校適正規模適正
配置審議会の内容が町
民に十分周知されてい
ないとの声もあり、審
議内容の公開・説明の
工夫が不可欠と考える。
中学校統合計画の進捗、
基本構想の策定状況、
周知方法の改善策につ
いての見解は。

教育長
統合による生
徒の不安を軽減し、円
滑な学校運営につなげ
るために実施する。合同生
徒総会、部活動交流、
合同授業などを通じ、
子ども同士の関係づく

◆その他の質問
・地域内連携の不足
・民間共創の体制づ
くり

詳しくは
この動画で



行政・地域経営の課題



もろくま ゆうすけ
諸隈 洋介 議員

中学校の統合改築計画の進捗と 開校の時機は

答 令和13年4月を最短の目標として計画している



▲新校舎候補地 歴史と文化の森公園

議員 本町の教育環境維持と財政の持続性について伺う。中学校統合は令和13年4月開校を目標と聞くが、現状の人口動態と学校規模の急速な縮小を踏まえ

令和13年4月開校を最短目標とし、基本構想・基本計画の策定を進めている。計画の前倒しの可否については地域

の理解の度合いを総合

的に見ながら慎重に検

討する。審議会の内容

の周知については、指

摘のとおり改善の余地

があるため、今後は広

報誌、学校配布資料、

町ホームページなど複

数の媒体を活用し、町

民が経過を把握しやす

い形での公開を徹底し

ていきたい。

コミュニティバス再編



まつなが としひさ
松永 俊和 議員

く変更したのは、利用頻度の少ない南北線の一部廃止（伊万里有田地区内、有田ポーセリンパークを含む戸杓地区内）である。代替策としてデマンドタク

シーへ移行する。

また、一部南北存続

路線として、マックス

バリュ及びバイパス沿

いの整形外科など集客

施設のある経路に変更。

また、バス運行数を増

便し、利便性向上を図

用できる。

学習センター、まつば

や、口石整形外科、高

原医院、マックスバリ

ュ、松尾内科、馬渡ワ

リーツクの8箇所へ利

用できる。

祉保健センター、生涯

学習センター、まつば

や、口石整形外科、高

原医院、マックスバリ

ュ、松尾内科、馬渡ワ

リーツクの8箇所へ利

用できる。

学習センター、まつば

や、口石整形外科、高

原医院、マックスバリ

ュ、松尾内科、馬渡ワ

リーツクの8箇所へ利

用できる。

祉保健センター、生涯

学習センター、まつば

や、口石整形外科、高

原医院、マックスバリ

ュ、松尾内科、馬渡ワ

リーツクの8箇所へ利

用



▲防災無線

議員 近年の温暖化の影響と思われる大雨や大規模火災発生時の情報伝達手段として、防災無線は重要である。断熱化住宅の普及により、音声による伝達



ひわたし 橋渡 とおる 徹 議員

防災無線の経費削減手段は

答 大災害時の情報伝達手段に必須であり、代替は難しい

防災無線の経費削減手段は

が難しくなっている状況である。10年単位で高額な経費が必要な設備を戸別受信機へ切り替えるのも一つの案と思うがどうか。

有田町役場(詳細)	
平均風向	南南西
平均風速	0.3 m/s 清
10分間	南南西
20分間	風向風速 1.7 m/s 清
△10分換算雨量	0.5 mm
△1時間移動換算雨量	0.5 mm
△累计雨量	10.5 mm

総務課長 戸別受信機は、機器の近くにいないと音声が届かないため、防災無線の補完的な役割と考えている。

議員 防災無線は大規模停電時には72時間、情報の伝達が可能である。防災無線は大規模停電時には72時間、情報の伝達が可能である。

議員 地域密着型・市民参加型・災害時の役割などの特徴があるこのミユーティF Mを開設する考えは。

総務課長 停電時や通信障害時でも情報収集が可能なラジオは重要であり、導入の検討は行つたが、平常時の運用が課題で断念した。

総務課長 役場庁舎に設置している雨量・風量計の情報を、町のホームページの防災サイトで閲覧ができる。



防災サイト

詳しくはこの動画で



詳しくはこの動画で

詳しくはこの動画で

詳しくはこの動画で



△その他の質問

- ・佐賀銀行有田支店跡地再開発事業について



▲改築予定古民家

議員 今年度より5カ年計画総事業費12億円規模で「佐賀の焼き物」を観光拠点に、町を中心取り組むようだ。県の事業ではあるが、内容の説明を。

やインバウンド誘致に動き出している。町は多言語ガイドの育成やデジタルガイドの導入、デジタル予約体制を県と協議している。

議員 進捗状況は。まちづくり課長の精査に時間が掛かっている。

有田町歴まち再生ファンド事業 運営改修等が考えられる。



てつか ひでき 手塚 英樹 議員

「世界の文化創造拠点ARITAプロジェクト」の「コンセプトは町全体を陶磁文化が肌で感じられる「生きたミュージアム」化である

答

町全体を陶磁文化が肌で感じられる「生きたミュージアム」化である

文化庁が実施した「本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業(ACEプログラム)



商工観光課長 佐賀の本物を活かした焼き物文化で、外国人観光客を中心、町をはじめ陶磁器産地を対象に事業を計画。「世界の文化創造拠点ARITAプロジェクト」のコンセプトは町全体を陶磁器文化が肌で感じられる、また世界の感性豊かな人々を惹きつける生きたミュージアム化である。県は九州陶磁文化館のリユース

文化館のリユース等のガイドンスコーナー整備、伝建物を飲食店や宿泊施設としての

詳しくはこの動画で



△その他の質問

- ・佐賀銀行有田支店跡地再開発事業について



▲改築予定古民家

高齢化へ向けての窓口

手続きの簡素化を

か もはら た み お
蒲原 多三男議員

答 マイナンバーカードの利用と、窓口対応の簡素化につとめる

水道事業の負担

議員 水道管の点検や管理、補修はどのようにしているか。

上下水道課長 点検はイヤホン等により音調にて実施し、平時は委託業者に依頼、漏水時は職員が実施している。

また、管理は管理システムを運用している。人口減少により水道の利用人口も減る中で、設備の維持費は増えていき、水道料金の上昇にはならないか。

上下水道課長 利用者数は、令和元年から6年までで1247人の減。原水単価はここ12年かなり上昇している。令和10年には値上げを検討したい。



詳しくは
この動画で



窓口手続きの簡素化

議員 マイナンバーカードの町内保有枚数と保有枚率、またコンビニ交付利用率はどうか。

住民環境課長 10月末現在の保有枚数は1万5753枚、保有枚率は85%である。令和6年度のコンビニ交付利用率は23・4%である。

議員 今後の更なる高齢化へ向けた書類申請などの取り組みを、マイナンバーカード利用と合わせて窓口手続きを簡素化し、町民の負担・事務負担の軽減を。

議員 業務の見直しや、デジタル化は必要である。一方、口の対面対応も大事。高齢者を含む全体の利害向上のためにも、かない窓口を検討したい。



▲プロジェクトの様子

詳しくは
この動画で



探求学習の導入による学校教育を

答 できる範疇でやつていきたい



かじはら さだのり
梶原 貞則 議員

できる範疇でやつていきたい

を町でも取り入れてはどうか。

教育長 「きのくに子どもの村学園」は、文部科学省に認可された私立学校で、公立学校のカリキュラムには縛られない教育ができる。また、学費が高い分、探求学習ができるものと考えられる。

議員 この学園は、現在全国に5校あり、6年前に「東彼杵のくべての区立小中学校で午後の授業はすべて「探求学習」が行われている。町でもこのような探求学習を行い、次代を担う人づくりをお願いする。

議員 たまらない、人生が楽しい人に育っていくこと

に子どもの村学園」も開校している。全国から移住して来た家族も約70人もいるとのこと。A-Iやロボット化が進む現在、必要とされるのは、自分で考え創造し、課題を解決していく人である。また、探求学習ができるものと考えられる。

教育長 有田の学校でできる範疇でやつていきたい。

するプロジェクトの中、自分で問題を解決しながら学習している。自分たちで創造し体験するため、学校が楽しくてたまらない、人生が楽しい人に育っていくこと

◆産業建設常任委員会行政視察

熊本県南小国町・天草市・長崎県島原市

黒川温泉では、事業継承の実情と泊・食分離の取り組みについて視察を行った。

人手不足対策として、従業員寮の個室整備、インターンシップの職場体験、黒川塾でリーダーを目指す研修プログラムを取り組んでいた。

場所：黒川温泉



場所：陶石現場

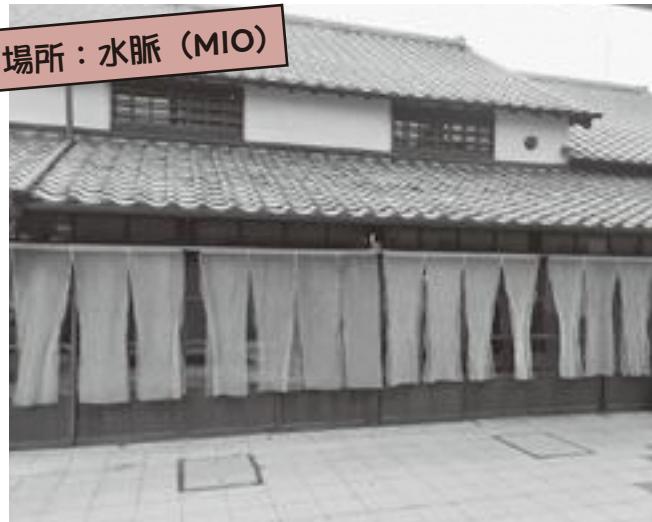


焼物産地として陶石値上げは死活問題である。値上げの連鎖を止める方法を、上田陶石さんとの話し合いの中で見つけたいとの思いでの視察であった。現場を案内され急峻現場での陶石と土砂の選別、その後の陶石を等級別選別作業を見せて頂いた。問題点は①人材の確保②山の造成許認可申請が厳しく、費用も増えてきたことであった。

アーケード内にある築170年の旧綿問屋の古民家再生の視察を行った。

風格のある外観はそのままに、ホテル機能（客室2屋）、コワーキングスペース、カフェ、設計事務所など多機能な部屋が整備されていた。

場所：水脈（Mio）



=まとめ=

黒川温泉は平日にもかかわらず宿は満室の大盛況で、中興の祖、後藤哲也氏の哲学が隅々まで行き届いている印象であった。

株式会社上田陶石さんへの人材派遣等の検討を考えさせられた。

水脈（Mio）の古民家再生は今後の有田の参考になった。

産業建設常任委員会

委員長 手塚 英樹

副委員長 諸隈 洋介

委員 岩尾 匡

委員 桶渡 徹

委員 松尾 文則

有田町議会と北海道釧路町議会との友好交流協定締結式

去る令和7年12月18日に、当議会から正副議長、各常任委員長と議会事務局長が出席し、釧路郡釧路町役場3階の議場において、今泉議長と橋口釧路町議会議長により両町議会の今後の友好と交流を記念して、協定書への署名と調印が行われた。

「友好交流協定書」

『明治3年(1807)5月、佐賀藩の諭達(*1)により佐野孫右衛門(*2)が、84戸285人の漁民を釧路町の旧昆布森(こんぶもり)村、旧仙鳳趾(せんぽうし)村に移住させるなど、古くから佐賀地方と釧路地方は密接なつながりをもっていた。このような歴史的背景を縁として、有田町議会と釧路町議会の交流が未永く続けられるよう、友好交流協定を締結する。両議会は、議会活動のみならず、教育、文化、観光等の多様な分野において、積極的に情報交換を行い、両町の地域活性化に寄与するため、相互の交流をより一層推進するものとする。』

令和7年12月18日 有田町議会議長 今泉 藤一郎 釧路町議会議長 橋口 春樹

*1 諭達(ゆだつ)：指図や命令を下すこと *2 佐野孫右衛門：新潟出身で昆布漁の漁場請負人

橋口釧路町議長：14日から15日にかけての大雪(積雪25cm)の中、この日が迎えられるかとても心配だったが、昨日、本日18日と雲一つない好天に恵まれ、素晴らしい締結式を迎えることができた。これから有田町と釧路町が、しっかりと議会の活性化、議員相互の情報交流、地域に住んでいる両町民のためにどのような議会活動を行えば互いの町民の生活が良くなるかということなど、相互の理解のもとで情報交換できればよいがと思っている。

今泉議長：今月2日には有田町長の不祥事に対して当町議会は問責決議を発議し、全国ニュースとなり、このような事態の中、協定締結式が開催されるのかとても不安だった。そんな中、橋口議長より「議会は議会、予定通りに締結式を行いましょう」と温かい言葉をかけてもらった。今後は、情報交換や人的交流等を通して釧路町の素晴らしいところをもっと知り、互いの強みを活かし協力関係をさらに深めていきたい。

小松釧路町長：道東でも一大昆布生産地である当町の昆布が北前船経由で佐賀藩やその従兄弟に当たる薩摩藩にも運ばれていた事実も、当町の歴史にとって大変意味深いものがある。また今回の協定は議会間における町の様々な課題等の議論や協力が主体であるが、町民同士、特に子どもたちの交流等、様々な面に目を向けてもらえれば幸甚である。



▲日本一の夕日(雪の釧路湿原細岡展望台から)



▲両町議員(釧路町議場にて)

●釧路町は、北海道東部の釧路地方に位置し、昭和50年代から隣接する釧路市のベッドタウンとして栄え、郊外型大規模店等の進出が相次ぎ、現在では釧路市中心部を超える一大商業地を形成している。ちなみに釧路町議会議長の橋口春樹氏は武雄市出身県立有田工業高等学校の卒業生である。

◆発議第3号 有田町議会議員定数条例の一部改正する条例について

有田町の将来を見据え、議員定数の在り方について議員定数等調査特別委員会を設置し、調査研究を行った結果、全議員による審議を経て、議員定数を1人削減することが適当であるとの結論に至った。

これに伴い、現行条例の一部を改正した。

(賛成全員で可決)

◆発議第4号 松尾佳昭町長に対する問責決議について

本町議会は、町長の出張先での酩酊及びセクハラ事案の対応について、町民から強い不信と懸念の声が寄せられている状況を重く受け止めている。

町長は、地方自治法に基づき、町政を預かる最高責任者として、常に高い倫理観と説明責任をもって職務を遂行すべき立場にある。しかしながら、これまでの言動及び対応は、町民の信頼を著しく損なうものであり、町政の停滞と混乱を招いていると言わざるを得ない。よって、本町議会は、町長に対し、町長としての資質を強く問い合わせ、ここに問責するものである。



▲蒲原議会運営委員長

(賛成全員で可決)

◆発議第5号 有田町議会委員会条例の一部を改正する条例について

有田町議会議員定数条例の一部を改正する条例を可決し、議員定数が16人から15人と1人減となったことから、委員会条例の一部を改正した。

(賛成全員で可決)

◆松尾佳昭町長の職務遂行に関する要請（令和8年1月6日）

本町議会は松尾佳昭町長への問責決議を踏まえ、職務遂行に関する要請を行いました。議会は、特別職である町長には高い倫理性が求められるとして、対外的な代表行為や重要な政策判断を厳に慎むよう要求。今後の町政は副町長中心の運営を求め、報酬不支給等の措置だけでは責任を果たせないと指摘した。議会は問責決議の軽視を許さず、今後の言動を厳正に注視し、必要に応じて対応する所存である。



▲令和7年10月15日（水）議員控室にて

秋田県能代市議会から行政視察

秋田県能代市議会より3名様が視察に来られた。視察内容は「有田町歴まち再生ファンド事業」について。町まちづくり課担当者より事業概要、事業に至った経緯、今後の展望や課題等について説明があった。質疑では、内山地区のまちづくりの取り組みや内山グランドデザインなどに関する様々な質問があり、大変有意義な視察となられたようだ。

岡山県瀬戸内市議会から行政視察

岡山県瀬戸内市議会より7名様が視察に来られた。視察内容は「剪定枝・草類処理施設（有田町リサイクルプラザ）」について。町住民環境課担当者より剪定枝・草類の分別方法などについて説明を行い、その後の現地見学では、処理過程などを熱心に質問されていた。瀬戸内市でも資源循環型のまちづくりに関する取り組みが課題となっており、参考になるところが多くあったと感想をいただいた。



▲令和7年10月29日（水）議員控室にて



▲令和7年11月12日（水）議員控室にて

北海道七飯町議会から行政視察

北海道七飯町議会より9名様が視察に来られた。視察内容は「有田町リサイクルプラザ」について。町住民環境課担当者よりリサイクルプラザの概要や剪定枝・草類処理施設について説明があった。質疑後、処理施設や展示棟を見学され、リサイクル品の有効活用について、今後の活動に十分活かしていきたいと話された。

任期を終えて

議席	氏名	コメント
1	浦川 和彦	町を深く知らなかつたと痛感。会話し動く中で、初めて見える地域の真実と重みを学ばされた議員生活。ありがとうございました。
2	岩尾 匡	瞬く間の4年間、要領を得ない発言や一般質問など多くの反省もある中、皆様に多くのご指導とご支援をいただき感謝申し上げます。
3	久保田 豊	議員として皆様から温かいご支援ご意見に感謝いたします。まだ多くの課題が残りますが、今後とも引き続きお力を貸しください。
4	諸隈 洋介	振り返ると、全力を尽くしたとはいえ、悔いがないと言えば嘘になります。ただ、「是々非々」の姿勢は貫き通してきたつもりです。
5	中島 達郎	今期は主に広報委員会の議員達と町の条例や規則、適材適所的な財政の運営費等を勉強し、一般質問等の際に取り上げることができた。町民の皆様や町職員方に感謝。
6	樋渡 徹	高齢化による農地荒廃化や空き家増加、少子化による学校のクラス減少、まち・ひと・しごと創生の定住促進、企業誘致を最優先に取り組むべき時期と思う。
7	手塚 英樹	ありた de お得クーポン、有田っ子出産・子育て応援ニコツと給付金、議員定数削減、議員報酬改定ができ、町長への問責決議は町史に残ることになる。
8	福島日人土	皆様のご協力により、12年間の議員活動ができたことを感謝申し上げます。今後は、一町民として町の発展を見守ります。
9	原田 一宏	今期も町民の皆様方の声に耳を傾け、町や町民の為に真摯に対応・活動させていただきました。ご協力頂いた皆様方に感謝申し上げます。
10	松永 俊和	人々が互いに尊重し合い、協調することを大事に考えて参りました。4期16年、町民の皆さまと議員各位のご指導とご協力に対してお礼を申しあげます。
11	蒲原多三男	実に様々なことがあったという実感です。議員の役割を果たすのが、自身の戦いでした。町長・各課長の皆さん、職員の方々に感謝しかありません。
12	池田 榮次	86歳で5期目の挑戦。多くのご支援で任務を果たせた。町幹部の不祥事は憤慨に堪えず。藤誠一郎議員の急逝が悲しかった。
13	梶原 貞則	議員6期目、特に危機的な少子化問題に取り組みました。今後も“明るい心豊かな町創り”のため、努力、精進の覚悟です。
15	松尾 文則	23年の議員活動で今季初めて産業建設常任委員会に所属しました。戸矢地区最終処分場問題、剪定枝・草類処理施設建設等とても勉強になりました。

一般質問回数

一般質問は、議員にとって意義のある発言の場で、議員が町政について自由に質問することを言います。質問する項目は事前に通告し、時間内であれば何度も質問できる「一問一答」を採用しています。

(令和4年6月議会から令和7年12月議会までに、15回の定例会が開催されています。また、藤議員の任期は令和4年4月16日から令和7年7月26日までとなっています。)

	浦川 和彦	岩尾 匡	久保田 豊	諸隈 洋介	中島 達郎	樋渡 徹	手塚 英樹	福島日人土	原田 一宏	松永 俊和	蒲原多三男	池田 榮次	梶原 貞則	藤誠一郎	松尾 文則	今泉藤一郎	
R4	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2	2	3	—
R5	4	4	4	4	4	4	4	2	4	3	4	4	2	1	3	—	
R6	4	4	4	4	4	4	4	2	4	3	2	4	2	2	2	—	
R7	3	4	4	4	4	4	4	1	4	3	3	4	3	1	3	—	
計	14	15	15	15	15	15	15	7	15	12	12	15	9	6	11	—	

議長就任以来の4年間、総務・文厚・産建の各委員会を中心に勉強会を重ね、地場産業振興や子育て、医療・福祉等の課題解決に向け、議員一同切磋琢磨してまいりました。町政発展のため、常に「凜とした議会」を目指し議論を尽くしてきたつもりです。

しかし、昨年12月2日の報道を受け、町内外の皆様に多大なるご不満やご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。二元代表制の一翼を担う議会として下した判断につきましては、賛否両論あるかと存じますが、何卒その真意にご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



有田町議会
HPはこちら



◆議長交際費支出状況（令和7年10月～12月）

項目	件数	支出額（円）	備考
会費	3	22,000	行政懇親会会費ほか2件
雑費	3	17,620	東京有田会総会・懇親会記念品代ほか2件
合計	6	39,620	



◆有田町議会議員

議会だよりも最終号となりました。

今年3月議会で任期4年をもつて有田町議員としての務めを終えることとなりました。これまで町民の皆さんから賜りました温かいご支援とご指導に、心より感謝申し上げます。

在任中は、人口減少や財政の持続可能性、公共施設の在り方、地域産業の将来など、多くの課題に向き合ってまいりました。議会では、町民の声を行政に届け、将来世代に責任ある判断を行うことを常に意識して活動してまいりました。

至らぬ点もあったかと存じますが、支えてくださった皆さんに深く御礼申し上げます。

有田町が誇る歴史と文化を礎に、今後も持続可能な町として歩み続けることを心より願い、感謝の言葉といたします。議員一同

あとがき

いつも議会だよりをお読みいただけます。

本誌は、6人の広報委員と事務局の協力により作成しています。議会での話し合いや決定事項などを、できるだけ分かりやすくお伝えしたいとの思いで編集を心がけています。今後とも、皆様のご意見やご要望との思いで編集を心がけています。これからも、身近で信頼される議会を目指してまいります。



◆議会広報発行特別委員会委員

議会広報発行特別委員会
委員長 諸隈 洋介
副委員長 樋渡 徹
委員 岩尾 和彦
委員 浦川 徹
委員 中島 久保田 匡
委員 達郎 豊 匡